令和2年度　大阪偕星学園高等学校　評価報告書

1　めざす学校像

人(生徒)は皆、星であり、生徒一人ひとりの個性を大切にし、かけがえのない存在としてその可能性を伸ばし、鍛えていく。生きる力を養う教育、個性を大切にする教育、共生教育。

- 常に教務の研鑽に努め、生徒一人ひとりの学力向上を図る。
- 生徒の個性と人権を尊重し、全人的な教育を実践する。
- 学園内の整備と美化に努め、より充実した教育環境を提供する。
- 進学・就職など、卒業後の生徒の進路を全力でバックアップする。
- 保護者の方々の意見を尊重し、学園運営に反映させる。

2　学校教育自己診断における結果と分析［　令和2年11月　実施分　］

実施対象は全学年生徒、保護者とした。回答は無記名、質問はアンケートと自由記述で実施した。保護者の回答率は93%、生徒の回答率は97%と高かった。保護者については、肯定的と捉えることができるAとBの和がほとんどの項目で7割以上に達しており、8割・9割以上の回答も増えてきている。また、生徒の回答についても肯定的回答がほとんどである。しかしながら、保護者に比べると満足度は決して高いとは言えない。生徒からの意見を精査し、更なる向上に努めなければならない。

回答率(回答数/在籍数)
生　徒　　1年:95%(355/372)　2年:96%(315/328)　3年:100%(306/306)　合計:97%(976/1006)
保護者　　1年:92%(341/372)　2年:89%(292/328)　3年:99%(304/306)　合計:93%(937/1006)

※学校関係者評価委員会からの意見

【 令和2年11月27日（金）】
・新型コロナウイルスの影響の中、学習指導や生活指導など様々な工夫を凝らしながら取り組んで頂いている。
・中間報告の結果を踏まえて気になるのが、各学年ともに欠席者が増加傾向にあるという点です。
・大阪市の教育に関する報告会議の中で、「新型コロナウイルス感染状況の中で、子供たちの状況に変化を感じますか」と教職員に尋ねると、「すごく感じるが9%、まあまあ感じるが50%」ということで、約60%の子どもたちに影響が出ているようです。その中でも「欠席が20%増加している」「保健室の利用者が多くなった」という回答があった。
・1年生の時には登校できていたが、新型コロナウイルス感染症による学校休業で2年生のスタートを自宅で過ごしたことで、学校休業期間が明けても登校できなくなった生徒もいます。
・子どもたちが登校できず、姿が見えない状況の中で、先生方が様々なことに気を使いながら、生徒の状況も含めて取り組んでこられたのがよく分かります。
・保護者の方は学校と連絡が取れない状況、伝えたいことを伝えることができないことや、情報を伝えてもらえないことを不安に感じておられる思います。しかし、ライデンスクールのメール配信を活用することで保護者の方も安心されているのではないかと感じました。
・学力の面では、通常のところまでもっていくために、先生方は精一杯の努力をされているのではないかと思います。
・2学期後半から3学期にかけて、来年度に続く授業や教育活動が通常通りに行っていけることが望まれます。しかし、感染拡大ということもあり、学校に対してどのような要請が下りてくるのかということを心配しながら進めていかなければならない状況だと思います。本当に丁寧に進めていかれていると思いますので、引き続きこういった形で進めてもらいたいと感じています。

・息子が3年生で、通常通りにスタートできなかったこともあり、進路が大変だったように感じています。1年生については、高校生活のスタートを通常通りいかなかったわけですから、欠席や遅刻の数がどうしても増えてしまうのは理解できます。学校側はものすごく頑張って支えてくださっているのがよく分かるので、このまま進めてくださると有難いです。

・この会に出席させていただいて常に思うのが、先生方の負担が年々増えていっているなということです。今回の会で感じたのは、先生方だけではなく、新型コロナウイルス感染症の影響で生徒さんたちの負担が思っていた以上に大きいということです。
・本当に先の見えないコロナの中で、何が正解か不正解かが分からないけれども、先生方も生徒さんたちも頑張ってやっていると思いますので、引き続きお願いします。
・4月、5月はマスクが不足していましたが、現在は学校のほうにも2万枚以上備蓄があります。消毒液についても手に入れるのが大変でしたが、今は安定して手に入っています。子どもはかかっても軽症だという情報が回り、マスクを忘れている生徒がいたりもしたが、「甘く考えていてはいけない」という認識を持ち、「換気、マスク、消毒、手洗い」をしっかりとやっていくようにしています。
・3学期は1、2年生は宝塚、3年生は劇団四季の観劇を予定しています。やはり、座学だけでなく芸術鑑賞など外へ出ていくことも考えながら実施できたらと思っています。

【 令和3年3月12日（金）】
・今年度については、新型コロナウイルス感染症の関係で、学校運営について大変ご苦労されたかと思います。そのような中でも、掲げられた目標に対し、一部達成できなかったものもありますが。全体的に無事に達成していただいたなと思っています。
・毎年、大阪府内各種関係機関との防災訓練を舞洲周辺で実施していますが、今年は困難なため図上訓練を予定しています。図上訓練という手法もありますので、生野区の防災担当のほうに問い合わせていただければと思います。
・生徒たちへの叱り方に気をつけています。個人の人格を尊重し、言葉でのハラスメントがないよう全教職員に伝えています。
・LGBTのことなども含めて、声なき声を聴いていく施策をしていかなければならないと考えています。
・卒業式を実施していただき、有難うございました。
・大学のオープンキャンパスに申し込んだのですが、オンラインでの実施でした。オンラインではなかなか大学の詳細まで分からず、大学を選ぶとなると情報が少なかったと思っています。高校から各大学の授業料なども含めて情報提供があれば有難かったと感じています。
・先日、1年生の保護者対象に進学説明会を実施しました。その中でも、やはり4年生大学にいくとどれくらいのお金が必要なのか。また、入学までにどれくらい用意しておく必要があるかなど、説明させていただきました。
・奨学金についても、昨年度から変更されている部分もあります。今は、非課税世帯など収入に応じ、返済不要で卒業してからも借金を抱えずにいけるというパターンもあります。高校から大学に対しての給付がすごく手厚くなっています。
・この会に何回か参加させていただいていますが、先ほどの奨学金の件やさまざまな生徒の指導等、本当に先生方のしなければならいことが会議を重ねる度に増えてきているなと感じます。また、追い打ちをかけてコロナのこともありますので。
・卒業式ができたことに対してお礼のお言葉をいただきましたが、最後の最後まで悩みました。校歌斉唱はなし、卒業証書授与の際の返事もな

し、生徒たちの席を距離をとっての実施でした。振り返ると、1年生は入学式ができていないんですね。4月については校外学習も行けない、学校に登校すらできない状況でした。芸術鑑賞については、3年生は大阪での「劇団四季」でしたので実施できたんですが、1、2年生は兵庫県の「宝塚劇場」だったので、中止となってしまいました。実は今、1、2年生の特進コースの生徒が修学旅行に行っています。2年生は本来、1年生の時に台湾へ行くはずだったのですが、昨年行けなかったので、今年1年生と一緒に行っています。行先は台湾から九州へと変更しました。進学については、スポーツコースの生徒がスポーツ推薦ではなく関西大学に合格しました。次年度からは、学内全域にWi-Fiが飛ぶようになります。不易と流行で変えてはいけないものもありますが、時代に沿って、子供たちのニーズに合った形で学校も成長していかなければならないと考えています。

3　本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の重点目標	具体的な取り組み内容	評価指標	取組内容の自己評価
取り組み①	学力の充実と進路希望の実現	①担当者同士の連携を密にすることにより、生徒達の理解度や進捗状況を丁寧に確認し、「わかりやすい授業」をする。また、定期考査は勿論であるが、模試の結果も教科としてしっかりと把握し、生徒たちの学力向上に努める。	①学校教育自己診断による、「授業はわかりやすい」の項目での肯定的回答70%以上	①担当者同士の連絡を密にしていくことや、定期考査の結果については教科として把握できているが、模試の数値を把握するまでにはいたっていない。学校教育自己診断による、「授業はわかりやすい」の項目での肯定的回答は66%だった。1年生が66%、2年生が66%、3年生が67%であった。昨年度に比べ、全体の数値としては上がっている。次年度については、担当者だけではなく、教科として生徒達の理解度や進捗状況を確認していき、丁寧な指導をしていく必要がある。また模試の数値も把握していき、実力向上に尽力していく必要がある。
		②生徒の進路実現のため、個々に応じた対策講座やガイダンスを実施していく。また、習熟度別の放課後講習、夏期講習を実施し、柔軟に対応していく。	②令和3年度入試において、関関同立は15名以上、産近甲龍は50名以上、摂神追桃は70名以上の合格者	②関関同立が23名、産近甲龍が80名、摂神追桃が95名であった。関関同立、産近甲龍、摂神追桃の目標はすべて到達できた。進学実績に関しては、特進コースに頼っている面が多分にあるので、次年度については、その他のコースにおいても合格者を増やすことができるように手法を研究する必要がある。
取り組み②	生徒指導の充実	①頭髪違反率を低くすることを、各クラスが意識していくようにする。	①毎月の頭髪違反率15%未満	①違反率2.55%
		②8時30分に自教室で着席しておくことを、習慣化していく。	②毎月のSHR遅刻率1%未満	②SHR遅刻率0.58%
		③毎日の学校生活の中で、生徒の規範意識が高まるよう、全教員が細かな点まで確認していく。	③懲戒処分者数を昨年度より減らす	③懲戒処分者数のべ58名（昨年度93名）
		④交通ルールやマナー、モラルに対する意識づけを日頃からしていく。	④外部からの苦情を0に近づける	④外部からの苦情43件（昨年度14件）
		全教員によるきめ細かい積極的生活指導・マナー（モラル）指導を推進し、生徒の規範意識を向上させ、問題行動の未然防止に努める。特に、「時間を守る」「ものを大切にする」「他者を尊重する」 に重点的に取り組む。		懲戒処分者数が昨年度より35名減少したが、日頃から担任、学年を中心に様々な角度から規範意識を高めるようにしていくことが必要である。外部からの苦情は昨年度より増加している。通学途中、「広がって歩いている」との苦情が多く、次年度についても交通ルールや電車内のマナーについて具体的に指導していかなければならない。
取り組み③	学校組織運営の活性化	①奨学金その他への対象生徒、保護者へのわかりやすい説明の徹底と丁寧な対応を行う。	①学校教育自己診断による「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」の項目での肯定的回答70%以上	①学校教育自己診断による「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」の項目において、肯定的回答が80%であった。生徒及び保護者のデバイスの使用方法に応じた、メール配信以外の情報発信方法も検討が必要である。また、日本学生支援機構奨学金に関しては、申し込み方法が一部変更となり、個人情報にかかわる内容には学校関係者が関与できなくなった。次年度からは、生徒や保護者に対して詳しい説明や質問への対応ができるよう、最前線となる担任の知識を深めていく必要がある。
		地域別受験者の増減を分析し、徹底したエリアマーケティングでメリハリのある広報活動をしていく。大阪偕星のファンとなる中学校、塾数を増やしていくことで専願受験者数を増やしていく。併願に関しては、昨年度大きく減少した地域の分析をするとともに、公立高校を検討している層にも魅力が伝わるよう広報活動をし	②専願受験者で300名以上を確保する	②専願受験者は277名となり、目標数値の300名は達成できなかった。各種イベントは、第2回オープンスクールまでの来場者は昨年度を上回ったが、新型コロナウイルスの影響や会場の定員制を設けたことにより第3回目や入試説明会の来場者は減少した。今年度は、新たに毎日相談会を実施し、LINEやインスタグラムといったSNSを用いての広報も行ってきたが、結果として昨年度の受験者数を上回ることが出来なかった。特に大阪府南部地域からの受験生が大きく減少した。次年度については、これまでの広報活動に加えて新たな手法で大阪偕星学園を受験生・保護者に知っていただくことが必要。
		③特進、文理進学コースの受験者数を増やしていくため、勧めてくれる塾、先生を増やしていくことが必要。	③特進コース・文理進学コースについては募集定員の確保 ○募集定員 特進コース（50名） 文理進学コース（90名）	③特進コース37名、文理進学コース40名となり、未達であった。進路探究コースについては、120名の入学者。スポーツコースについては135名と募集定員を満たすことができた。次年度については、特進コース、文理進学コースの募集定員充足に向けて、広報活動を更に強化していく必要がある。中学校や塾の先生からも近年の大阪偕星の進学実績は認知

			進路探究コース(120名) スポーツコース(80名)	されつつあるが、まだまだ受験生や保護者に知られていない点もあり、新たな広報策が必要。